

令和7年度一関市農業技術開発センター運営委員会会議録

- 1 会議名 令和7年度一関市農業技術開発センター運営委員会
- 2 開催日時 令和7年5月27日（火）午後2時から午後3時30分まで
- 3 開催場所 北部農業技術開発センター
- 4 出席者
 - (1) 委員 三浦賢一郎委員（委員長）、佐々木真人委員、加藤幸助委員、栗原亨委員、後藤忠行委員、藤野秀一委員、佐藤正弘委員、佐々木修喜委員、千葉文彦委員、小島幸喜委員、葛西信昭委員
※欠席者 千葉健司委員、足利智枝委員、小野寺勝義委員
 - (2) 事務局 小野寺啓農林部長
千葉清農林部次長兼生産流通課長兼農業技術開発センター所長、
日下昭二生産流通課畜産園芸係長、
佐藤裕生産流通課主事兼農業技術開発センター主事、
千葉広南部農業技術開発センター副所長兼農業技術員、
米倉清徳南部農業技術開発センター農業技術員、
佐藤克朗北部農業技術開発センター副所長兼農業技術員、
齋藤哲也南部農業技術開発センター主任主事

5 議 題

- (1) 令和6年度事業の報告について
- (2) 令和7年度事業の計画について
- (3) その他

6 公開、非公開の別 公開

7 傍聴者 なし

8 挨拶

小野寺啓農林部長

本日は、令和6年度の事業報告と令和7年度の事業計画について、説明させていただきます。

委員の皆様それぞれの立場から、率直な意見をお聞かせいただき、当センターのより

良い施設運営につなげて参りたい。

9 審議内容

(1) 令和6年度事業の報告について

事務局から資料に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 土壌分析の費用はどのようになっているか。

事務局 市内の農業者であれば部会、一般問わず1点当たり2,000円としている。

委員 土壌分析の処方箋の作成を担当している機関に所属しているが、処方箋に対する意見を伺いたい。

委員 肥料成分の過不足と10アール当たりの施肥量は記載しているのでわかるが、さらに詳しく聞きたいときの窓口があるといい。

部会員であれば、農業協同組合や一関農業改良普及センターに問い合わせるが、一般の方は難しい。

委員 各部会に対しては対応できるが、一般の方は圃場の状況を把握できないことと人員不足のため対応は難しい。

委員 生産者としては、農業に関する技術関係を知っているのは一関農業改良普及センターなので、人が少ないといっても一関農業改良普及センターで対応してほしい。

委員 数値だけでは土壌の状況を判断できないというのはよくわかる。

農地をどのように改良したいかという生産者のビジョンによっても指導は異なってくるので、一関農業改良普及センターでは、ごく一般的な内容の処方箋になると思う。

農業指導機関としてどのような農業者を育成したいかにもよると思う。

例えば、有機栽培となれば処方箋も変わると思う。

委員 小菊の品種を選ぶための試験栽培は大変ありがたいが、メーカーから取り寄せる品種はメーカーとの契約が必要になる。

温度だけでなく、植える圃場によっても開花時期が変わってくる。

従来の子種については農家同士でもっと情報共有が必要である。

今年、小菊の成長が昨年より遅い感じがする。

事務局 試験圃場の現場としては、多くの生産者に見に来ていただきたい。

実際に栽培してみて、ホルモン剤による開花時期の調整は賭けであり、例えば8月上旬に採花する品種の場合、5月下旬にホルモン剤を散布しており、2か月以上先の気候を予想する必要がある。

一関農業改良普及センターや農業協同組合でも指導するのは難しいので、最後は生産者が判断するしかないと感じた。

また、資料に掲載している小菊の草姿をご覧いただくとわかるが、メーカーから取り寄せて栽培した品種は、花のボリュームが全く違いすばらしかった。

産地として、開花時期だけでなく、消費者から選ばれる良い花を栽培するためにも品種選定は必要だと感じた。

委員 8月咲きのエスレル散布のタイミングが難しい。

エスレル散布時の温度の検証をしているか。

事務局 試験圃場に温度を自動計測する装置を設置しており、一関農業改良普及センターで検証している。

委員 標準を決めるのは良いが、品種や選択枝を決めつけるのではなく、部会内の情報交換を活発に行い、生産者がその中で選択する力が大切と感じる。

委員 国のみどりの食料システム戦略の取組により、昔より有機農業に取り組みやすくなった。

今年は、慣行栽培も含めて全て種もみは温湯消毒を1万枚ほど行った。

有機農業の栽培技術を少しでも広めていきたい。

農業祭と同日の10月25日、26日にオーガニックフェスタというイベントを一関遊水地記念緑地公園で行う。

委員 山本農場が台湾の物産展に出品した米の価格はいくらか。

事務局 販売価格は、3,500円と記憶している。

委員 給食に有機のごぼうとにんじんを出荷しているが、入札で落ちない場合もある。

規格については、農家の努力と技術だが、出口戦略が重要と感じている。

有機農業で新規就農の認定は参考事例が少なく、就農計画を立てるのが難しいようなので認定を弾力的にしてほしい。

事務局 有機食材の活用については、一関地方有機農業推進協議会の検討会に学校給

食担当課から出席するので、その場で協議、検討している。

販路の面では、道の駅だいたいとうに有機農産物の特設コーナーの設置を協議会を通じて行っている。

有機農業の営農類型については、関係機関と協議したい。

(2) 令和7年度事業の計画について

事務局から資料に基づき説明を行った。以下、質疑応答等。

委員 小菊の試験栽培については、温度も含めて検証してほしい。昨年の結果との比較をしてほしい。

委員 有機農業をやりたいという人は市内各地にいると思う。

生活協同組合で有機の畑作物に関連したイベントを計画しており、ご協力いただけるとありがたい。

委員 買ってくれる人、ファンを増やすのが一番重要である。

事務局 市としても積極的に協力したい。

10 担当課 農林部農業技術開発センター